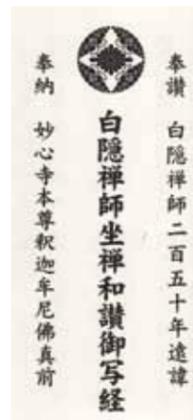


やっつます  
あつまれ!  
写経の日程



第4土曜日の午後1時半から4時半まで本堂で写経ができます。  
都合の良い時間に来て、ご自分のペースで写経して、お好きな時間にお帰りください。ただし、初めての時はなるべく1時半にご参集ください。もちろん、檀家さん以外でも参加できます。お友だちを誘ってお越しください。

【写経】令和6年下半年開催日

9月	28日(土)
10月	26日(土)
11月	30日(第5土曜日)
12月	28日(土)

コロナ禍で世界が凍結して五年余り、寺の行事もちよつとずつ解凍して、元にもどしています。なんて書くか「もてななくてヨイヨ」。コロナの時の短い法要で結構」。なんて、声が聞こえてきます。もともと短い松岩寺の行事ですから、そう長くはならないので、ご安心を。

【日曜の朝の坐禅体験】

やっつます



毎週日曜日の朝六時〜七時まで、松岩寺本堂での坐禅に一般の方も参加できます。朝六時に鐘をつきますから、それまでに本堂に入ってください。初心の方には、坐り方をご案内します。三十分坐って休憩、残りの十五分ほど坐って、最後に般若心経をよんで七時に終わります。

やっつます

【金つぎ教室】講師 花輪滋實

第四土曜日 午後一時半〜四時半まで

新企画

【大人のためのリトミック】講師 大澤佳奈子

9月	7日(土) 午後三時〜四時
10月	5日(土) 午後三時〜四時
11月	9日(土) 午後三時〜四時
12月	7日(土) 午後三時〜四時

おひさしぶり!

法要後はピアノ伴奏で歌曲。歌はひさしぶりです。

【編集後記】 1

◇『禅文化』という雑誌があります。発行しているのは、京都にある禅文化研究所という財団法人です。昭和30年に第1号が発行されて、年4回の季刊ですから、最新刊で273号になります。私はずいぶん前に一回だけ寄稿したことがあります。それ以後はお呼びがありません。私のような寄せ集めの知識では太刀打ちできない禅の専門的な雑誌です。

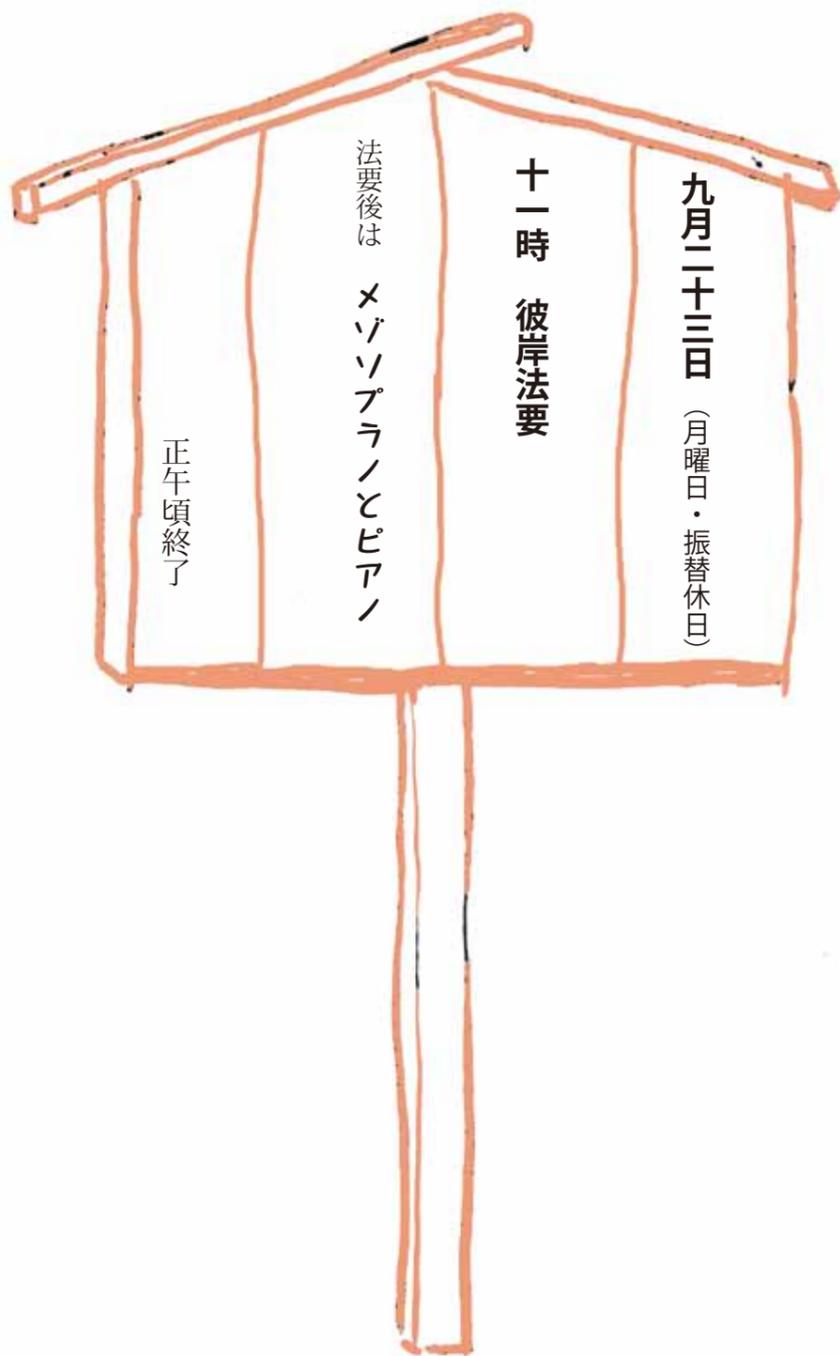
◇そんな学術誌の7月号の特集は、「日本人と『般若心経』」でした。芥川賞作家で禅僧である玄侑宗久師をはじめとして、著名学者が執筆しています。どうして「般若心経」というお経は人気があるのかというところ「短いお経だから」というのが結論のひとつようです。

◇般若心経につけられるキャッチフレーズに「仏教のエッセンス」というのがあります。エッセンスって、わかりやすくいうと「いい所とり」でしょう。まわりくどい説明はしないで、美味しい結論だけを、ぼつぼつと述べている(そう言われても難解な仏教用語満載なのは他のお経と同じなのですが)

◇「短い」と言われるけれど、何字かというところ262文字。四百字詰め原稿用紙でマス目の半分ちよつとに収まるのだから、短いといえば短い。短いとはいえ、毎月第四土曜日の写経に来られる方は、一時間くらいかかって262文字を写しているから、なんとも言えない分量です。

(裏面の【編集後記】2に続く)

9月19日(木=彼岸入り)から22日(秋分の日)まで、朝8時から夕方4時頃まで、墓地では花と線香を用意しております。



本堂はすべて椅子席です。椅子を並べる間隔を調整するため、電話・FAX・Eメール等でご出席をお知らせください。